

教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和 6年 7月 11日

氏名 太齋 慧

所属 臨床心理学 コース

指導教員名 能智正博

1. 研究課題 スティグマを生きる成人期ゲイ男性のライフストーリーと対話—支援的な関わりに向けて—
2. 報告する学術活動の実施期間 令和6年6月10日 ~ 令和6年6月12日
3. 日本学術振興会特別研究員 (DC) の現在の採用状況 DC1 DC2 採用無し
4. 学術活動
 - 国外 国内
 - ①英語論文公表
 - ②研究科教員の研究プロジェクト参加
 - ③フィールドワーク
 - ④国際会議 (研究発表 運営補助 出席のみ)
 - ⑤研究会 (研究発表 運営補助 出席のみ)
 - ⑥研究指導委託
 - ⑦留学
 - ⑧国際研修
 - ⑨国際インターンシップ
 - ⑩その他 (具体的に:)

5. 学術活動実施の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表
(著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ
(プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間(年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	④国際会議
<p>【活動種別】 研究発表 【発表種別】 口頭 【会議名】 41st Annual International Human Science Research Conference 【予定年月日】 2024年6月10日～12日(発表日:6月11日) 【会場】 Molloy University Rockville Centre, NY, USA 【発表題目】 How heterosexual psychological supporters position themselves with homosexuals 【発表内容概要】 同性愛者のメンタルヘルスの問題は抑うつ、不安、自殺企図等様々な指標において指摘されている (Piöderl & Tremblay, 2015)。その背景に、同性愛者を貶める見方、態度、社会構造としてのスティグマがある (Meyer, 2008)。同性愛当事者は社会からの否定的な視点を内在化してセルフスティグマを抱きがちであり、それが肯定的な自己概念ひいてはメンタルヘルスを阻害する (Newcomb & Mustanski, 2010)。心理支援においては支援者がスティグマを認識することの重要性が謳われている (APA, 2021) が、心理支援過程においては意図がなくとも軽視や侮蔑を伝えてしまうマイクロアグレッションが生じることがあり、同性愛者の自己概念や支援関係を害することが指摘されている (Sue, 2010)。以上より本研究では、異性愛者である心理支援者がどのように同性愛者や同性愛者に対する支援を捉え、同性愛-異性愛という差異に対して自己をどのように位置付けるかを明らかにし、支援関係を促進するあるいは阻害する関わりが生じる条件について検討することを目的とする。 異性愛者である心理支援者 11 名を対象とし、同性愛者や同性愛者への支援のイメージについて半構造化インタビューを行った。分析の観点としてポジショニング理論 (Harré & van Langenhove, 1999) を用い、異性愛者に対して自己をどのような存在として位置付けるかという観点からカテゴリ分析を行った。 その結果、支援者が同性愛者に対する自己のポジションを広げる過程が見出された。ポジショニングにおいては差異への意識の大きさという認知の軸、差異へ近づくか距離を取るかという関係性の軸が見出され、象限を代表するポジションとして【やりにくさ】【個人としてみる】【同性愛者の特有の経験への意識】【同性愛者の特有の経験への共感】が見出され、同性愛者への支援におけるやりにくさに対処しポジションを移行することを示すカテゴリが見出された。それぞれのポジションについて肯定的機能、およびマイクロアグレッションにつながるような否定的機能が考察された。支援者はこれらのポジションの機能に気づき、複数のポジションを活用していくことが有用であると考えられた。</p>	

(注) ① 年月日は西暦で記入してください。
② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。
③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。
④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究開発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

セクシュアルマイノリティである同性愛者の人々に対して支援者自身がどのように自分を位置づけて支援を行うかというテーマについて、様々な国の対人支援に関わる研究者に発信しそこから議論を行うことができた。どのような対人支援の領域においても応用可能性があり、自省的な支援実践に資する知見を国際的に発信できたと同時に、多様なフィードバックを得ることができ、自らの研究への視野を広げることができた。例えば、時代背景を考慮すると年長の支援者の方が同性愛への違和感を抱きがちだろうという直感に反し、臨床歴が浅い若年者の方が同性愛者への支援にやりにくさを抱く語りが多かった点について議論した。他国の参加者から、臨床歴が浅い時期にはセクシュアルマイノリティへの支援において理論や知識に頼りたくなり本人の経験に寄り添うことが疎かになりがちだったという体験がシェアされ、臨床歴や支援に対する自信といった要因は改めて考察が重要になる点であると感じられた。

他に自身の研究課題につながる成果としては、本発表に取り組むことで、支援者が同性愛者との差異に対する自己のポジションを広げる過程について明らかにすることができ、今後の対話過程の研究の足掛かりとなった。具体的には、差異に対する距離や意識の大きさという軸においてポジションを変化させることが見出され、ポジションそれぞれの機能が考察された。この知見は、同性愛者と支援者の間でどのような対話過程によって同性愛者の自己が構築されるかを検討する上で、相互のポジショニングを理解する参照枠となる点で有用である。